

わい性台木モモの生産力増強技術

第1報 ニワウメ中間台木の発根促進法

芝田展幸・吉田智也・平山好見 (大分県農業技術センター)

Nobuyuki SHIBATA, Tomoya YOSHIDA and Yoshimi HIRAYAMA :

Management for Increasing Productivity of Peach Tree on the Dwarfing Rootstock

1. Rooting of *Prunus japonica* for the Interstock

モモのわい性台木としてニワウメは、現状では中間台木としての挿入による利用が多くなっているが、この方法では中間台木部からの発根が極めて少なく、生育不良や枯死等の障害が多く生産上の問題点となっている。このため樹勢の増強維持と生育の均一化を図るため、中間台木の発根方法を検討した。

1. 試験方法

供試樹はスダイにニワウメ (平塚系) を接ぎ木したものと及び、それを中間台木として20cm挿入し、穂木品種 (サマーエース, ちよひめ, あかつき) を接ぎ木した1年生樹を1988年12月に定植し、処理は'89年4月にニワウメ台木部分に①ノコ目付傷し IBA 200ppm 液を水苔に浸漬したものを巻きつけ外側をポリ包装, ②ノコ目付傷し IBA 200ppm 液をトップジンペーストに混合したものの塗布, ③ノコ目なし以下①の方法に同じ, ④無処理で、各処理区とも施術後20cm覆土した。なお、ニワウメ部分の覆土には完熟堆肥入りの土を用いた。調査は処理50日後 (6月6日) に発根状況を調査した。

2. 結果及び考察

処理50日後の発根状態は第1表のとおりで、IBA 剤の処理によりニワウメ部分の発根が促進された。

処理方法では台木部にノコ目付傷の場合に、IBA 200 ppm 液を水苔に浸漬したものを付傷部分に巻付け外側をポリ包装する方法と、トップジンペーストの混合液を塗布する方法のいずれをとわず発根率が高く、次いでノコ目傷なしに IBA 200ppm 液を水苔に浸漬したものを包装処理した区の順で、無処理区での発根は少なかった。また、穂木の有無、穂木の品種間による発根の差は IBA 処理でははっきりしなかったが、無処理区では穂木品種あかつき及び穂木品種なしで発根がみられ、接ぎ木親和性によるものか今後検討を要する。

以上の結果から、ニワウメ中間台木の発根促進には IBA 剤の処理が有効で、この中でもノコ目付傷したものに IBA 200ppm のトップジンペースト混用による塗布は覆土のみでよく実用的と思われる。今後、接ぎ木組合せ、薬剤及び処理方法についてさらに検討が必要と思われる。

第1表 モモわい性台木ニワウメ (平塚系) 中間台木の IBA 処理法の発根量

処 理 区	穂木品種	発根樹率 %	発根樹の根長別発根量 (本) / 樹			
			~ 2cm	2~5cm	5~10cm	10cm~
ノコ目付傷+IBA200ppm 水苔浸漬ポリ包装	サマーエース	100	14.2	15.6	6.8	1.2
	ちよひめ	100	20.2	20.0	18.0	13.8
	あかつき	100	13.8	17.5	13.8	13.3
	穂木品種なし	100	26.3	19.2	8.5	22.8
ノコ目付傷+IBA200ppm 混合トップジンペースト塗布	サマーエース	100	14.7	16.3	7.7	4.3
	ちよひめ	100	15.0	17.7	13.7	10.3
ノコ目なし IBA200ppm, 水苔浸漬ポリ包装	サマーエース	80	4.5	3.5	3.5	2.3
	ちよひめ	80	7.8	7.5	6.0	5.5
	あかつき	100	12.5	15.0	5.0	2.5
	穂木品種なし	100	4.8	2.7	1.8	1.0
無 処 理	サマーエース	0	0	0	0	0
	ちよひめ	0	0	0	0	0
	あかつき	67	14.0	7.5	9.0	2.5
	穂木品種なし	67	3.3	2.3	2.3	4.3

注) ・1区1品種5樹、ただし、あかつきは3本、穂木品種なしは6本